資料3　別添2
（第48回監視円卓会議）

活性炭吸着に関する調査状況について

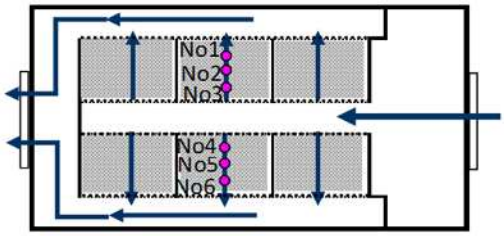
1　実機における活性炭中の含有量測定（PCB及び洗浄溶剤）

（1）　活性炭層中の上流・中流・下流から採取※1した各部分の濃度の比較

※1　定期点検中に活性炭吸着槽の上蓋を開けて採取。高さ方向は上中下3カ所から採取したものを等量混合

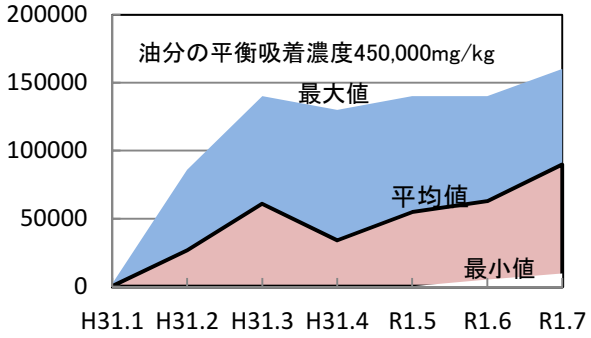
表．活性炭中の各物質の濃度(mg/kg)

	PCB			洗浄溶剤
	H23.9	H24.9	R1.8	R1.8
No.1(下流)	28	84	26	150000
No.2(中流)	0.09	26	<0.05	8500
No.3(上流)	6	0.89	<0.05	90
No.4(上流)	4.2	<0.05	<0.05	250
No.5(中流)	22	32	<0.05	11000
No.6(下流)	22	53	1.8	130000



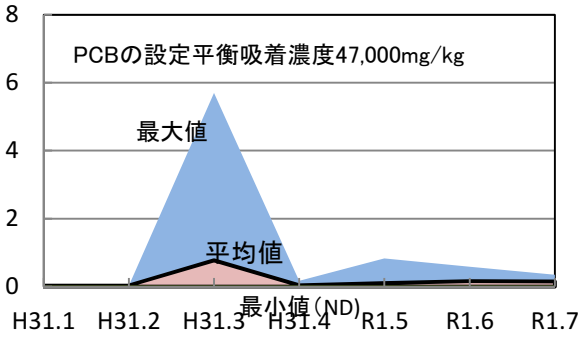
（2）　活性炭層中の濃度の経時変化※2

※2　運転中に各活性炭層（×6）の中央部分から高さ方向に上・中・下（×3）から採取したものをそれぞれ分析



活性炭中の洗浄溶剤濃度の計時変化

最大値と最小値の幅が大きく、
濃度のバラつきが大きい



活性炭中のPCB濃度の計時変化（mg/kg）

平衡吸着濃度からはるかに
低い水準（1万分の1程度）を維持

2　活性炭吸着槽出口排ガスの濃度

活性炭吸着槽出口排ガス濃度はいずれも検出下限未満※3であった。

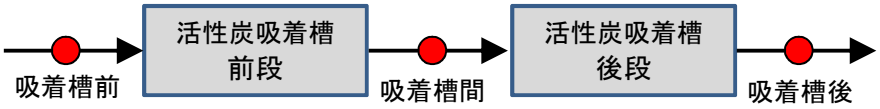
※3　PCB：0.001mg/m^{3}未満、　洗浄溶剤0.1mg/m^{3}未満

3　今後の対応

洗浄溶剤の影響を踏まえた活性炭交換基準を定めるまでの間、次の措置を講ずることとする。

（1）排ガス監視強化の継続実施

第1系統に設置されている2槽の活性炭吸着槽の前、後及び2槽の間の3地点で、及び洗浄溶剤濃度の測定を実施



（2）実排ガスによるカラム試験装置の設置

実機では濃度のバラつきが多く、不明確な点も多いことから、実排ガスを通気するカラム試験装置を設置し、一定条件下でバラつきが少ないデータを収集し、交換時期設定の基礎データとする。